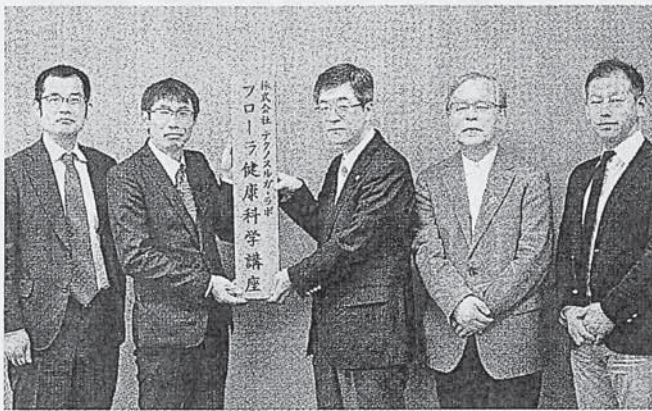


弘大と静岡の企業が共同講座開設

腸内、口腔細菌解析へ

岩木地区で蓄積 健康への役割解明 巨大データ活用



弘前大学大学院医学研究科とテクノスルガ・ラボ（静岡市、望月淳社長）は今年度、共同研究講座「フローラ健康科学講座」を開設した。弘大が10年以上にわたって継続する岩木健康増進プロジェクトで得られたビッグデータから、これまで未解明の部分が多く、「ブラックボックス」と言われてきた腸内細菌や口腔細菌の健康への役割を明らかにする。並行して、腸内細菌の解析から腸内年齢などを判断し健康度合いをチェックできる個人向け解析サービスを展開する方針で、今年5月のスタートを目指している。

テクノスルガ・ラボ 画している。

は1997年、微生物 講座は同社2人、弘満、糖尿病、動脈硬化などの関わりや働きについて解明する。

個人向け解析サービスは、同社などが腸内細菌を解析して健康度合いを示す指標を提供するもので、膨大な項目がそろったビッグデータを活用することで、より精度の高い解析が可能となる。

11日は同大医学部で講座の設置開式が行われ、望月社長は「腸内細菌に関わることで、人の健康につながるよう取り組んでいきたい」、若林孝一研究科長が「腸内フローラ、口腔内フローラに

は1997年、微生物 講座は同社2人、弘満、糖尿病、動脈硬化などの関わりや働きについて解明する。

個人向け解析サービスは、同社などが腸内細菌を解析して健康度合いを示す指標を提供するもので、膨大な項目がそろったビッグデータを活用することで、より精度の高い解析が可能となる。

11日は同大医学部で講座の設置開式が行われ、望月社長は「腸内細菌に関わることで、人の健康につながるよう取り組んでいきたい」、若林孝一研究科長が「腸内フローラ、口腔内フローラに

今年度開設した共同研究講座「フローラ健康科学講座」。弘大のビッグデータから腸内細菌などの健康への役割を明らかにしていく

授は、ビッグデータ活用の今回の利点について、データの中には社会医学的な項目もあるため、「どうすれば腸内細菌をいい方向にもっていかせるか」という解決方法や、対象者がどんな生活を送るといいか助言するところまでできることが大きな特徴」と強調。取り組みの効果として「人々の健康に対する行動や教養が深まることを願いたい」と健康意識

授は、ビッグデータ活用の今回の利点について、データの中には社会医学的な項目もあるため、「どうすれば腸内細菌をいい方向にもっていかせるか」という解決方法や、対象者がどんな生活を送るといいか助言するところまでできることが大きな特徴」と強調。取り組みの効果として「人々の健康に対する行動や教養が深まることを願いたい」と健康意識

の向上に期待を寄せた。

弘大に開設する共同研究講座は今回で7例目。